東京薬科大学新聞

発行所
東京薬科大学
新聞会
責任者
宮原勇人

三号議案大荒れ！

自治会費値上げをめぐり賛否両論

◆　◆　◆

3号議案

◎自治会費改正について

（概略）

各委員会費、クラブ予算が今までの年額および入会金三千五百円という金額では十分でなく、満足に活動できないため来年度から入会費及び年会費を四千五百円とする。

◆　◆　◆

本年度の後期学生大会における三号議案（右に掲載）は賛成六百七票（議長採決を含む）反対三百四十一票で可決された。しかし議長採決による票数（委任状の票数）を除外すれば賛成は二百八十二票となり半数に至らない。そのため不満の残るものとなっている。

その要因の一つに、三号議案に対する質問とそれに対する解答がかみ合っていなかったことが挙げられる。そこで三号議案とは実際どのようなものかを考証してみたい。

まず学生が疑問に感じていることを学生大会の質問よりまとめると

＊学生にどのような形で還元されるのか。（何故クラブに入っていない学生がクラブのための費用を出さなくてはならないのかを含む）

＊千円の値上げは本当に必要なのか。

に対する解答はクラス会費の有効な利用及び新しいクラブの設立に門戸を開く等を行い自治会員全員に還元されるというものだった。この解答には自治会費値上げには直接関係のないと思われるものも含まれたため、それらをふまえ児玉実章自治委員長に説明をお願いした。（質問とその説明は左に纏めて掲載）

これにより今回の値上げは直接的にはクラブのためのみということが明確になった。（間接的にはクラス活動費の増額を議論する可能性が出てきた）ではクラブの費用をクラブに入っていない学生までの二点に大別される。一つ目

たり、千円という金額の決定をどう考えていますか？

「反対だ。決断に急ぎすぎ。皆、めんどくさいからといって明細を出さない。等際に必要な額より遠慮して予算請求しているところもある。値上げの必要はあるのか？それがどのくらい必要なのかを決するには余りにも不用意だ」

クラス活動費の基準についての説明をお願いします。

「いままでクラス活動費の定義が実はなかった。明確にしなければならないね。今年のは使い道が明確でも本部費との境がわからない」

○自治委員会議長に聞く

クラス活動費の有効利用と千円の値上げは関係ありますか

「ない。単にそれを契機にということ」

では、値上げはクラブのためのみという事ですね？

「そういうことです」

クラブに入っていない学生がクラブ予算のためのみの値上げを課せられることの正当性を説明して下さい。

「学生の権利でクラブ活動ができるのであり、その権利を行使する為に必要な額をむげに拒否することはできない」

今回の自治会費値上げにあ

ることを学生大会の質問よりまとめると

＊学生にどのような形で還元されるのか。（何故クラブに入っていない学生がクラブのための費用を出さなくてはならないのかを含む）

＊千円の値上げは本当に必要なのか。

に対する解答はクラス会費の有効な利用及び新しいクラブの設立に門戸を開く等を行い自治会員全員に還元されるというものだった。この解答には自治会費値上げには直接関係のないと思われるものも含まれたため、それらをふまえ児玉実章自治委員長に説明をお願いした。（質問とその説明は左に纏めて掲載）

これにより今回の値上げは直接的にはクラブのためのみということが明確になった。（間接的にはクラス活動費の増額を議論する可能性が出てきた）ではクラブの費用をクラブに入っていない学生まで

が払わなくてはならない理由ということになる。これは全ての学生にクラブ活動をする権利を与えられており、その権利を保持するために費用を払うということであろう。

二つ目の質問である千円の値上げは本当に必要かについてだが、学生大会では「感覚的なもの」という解答で失笑をかった。が、これは値上げによる増収がある程度の効果を示し学生に納得してもらえるであろう切れの良い数字という意味である。現在、予算請求額に対し自治会費が三百万円ほど不足している。また最後に自治会費が設定されてからの物価の上昇を考えると千円の増額は妥当であろう。ただこれに関しては厳密な調

動物慰霊祭

十二月十二日、前日の雷が嘘のような秋晴れの下一一講義室に於いて、実験の名の元に小さな命を我々の知識及び技術の向上の為に奪われたあわれな実験動物たちの供養をしようと、動物慰霊祭が終始厳粛な雰囲気の中で行われた。参列者は三百人を越え、後ろの方には席がなく立っている学生も多く見られた。

壇上には自らの運命を何も知らずに元気に息をしていた在りし日のラットやうさぎ、ねこや犬らの遺影が並べられ、それとともに講義室をつつむかすかな香の香りが我々のしてきた事の罪深さを少なからず実感させてくれた。

弱った命の灯を力強く灯し直さんが為に小さいながら力強い命の炎を次々と吹き消さなければならない矛盾はきっと誰しも感じている所であろう。だが残念ながらこの矛盾をふみ台にし、ふみ固めなければ我々の薬剤師への道は開かれない。近代の医学、薬学は数え切れない実験動物達の生命の犠牲という石垣の上の城と言えよう。石垣が高ければ高いほど強固な城となりうるのと同様、これからさらに薬学という城を増築する為に

はより大きな石垣、すなわち新たな動物達の犠牲が必要となってくる。そう考えると薬学とは悲しい学問ではないか。宮崎総務部長はこの慰霊祭で「動物たちが捧げてくれた一つしかない命を無駄にしないでほしい」と語られた。お教をあげにきて下さったお坊さまも「昔バイトで東薬の奥回りをした時の、明日にも殺されるかもしれない自分を見つめる目が忘れられない。薬学生がどこかで命を救えば、死んだ実験動物も救われる。悲しみや苦しみを知らずして真の喜びは解りえない。この罪もない動物を殺した事実を我々は忘れてはならない。今回出席できなかった諸氏も次回はぜひともこの慰霊祭に参列し焼香していただきたい。愛すべき実験動物のために。

コーヒーブレイク

『ロッキー5』

人は言う。ロッキーはまさにアメリカのヒーロー、アメリカンドリームの象徴であると。

確かに「ロッキー4」までを見ていると、人間は努力すればなんでもできるという気にさせられるのは事実だろう。しかし、完結編である「ロッキー5」は語っていた。全ての人間が努力するだけでのし上がれるなどの楽観的なアメリカンドリームではない、と。

何が人を強くするのだろう。この作品で言えば、ロッキー・バルボアはどうして勝ち目のないチャンピオンと十五ラウンド戦い抜いたのか。そして幾多の激闘の末、引退したのか。それは愛する妻をはじめとする査の基に決定されたわけではない。そのためもっとしっかり考慮（予算の監査基準や今後の影響など）してからの方がよかったのではないかの等の懐疑的な意見も出ている。

今回、クラス活動費が三号議案から派生して注目を浴びた。これは自治委員会の管轄で一クラスに一万円ということで割り振られている。これに対し学生は自分のクラスとは思えない、余った予算はどこへいったのかと不満を露に

だが、人は完璧なものではない。全てを忘れ、無我夢中になって突っ走ってしまうこともある。トミー・ガンのセコンドとなったロッキーは、彼にもはや戦えなくなった自分自身を投影していただけだったのではなかろうか。ロッキーは自

した。この原因は自治委員会で必要な経費の内どこまでがクラス活動費でどこからそうでないのかという基準がはっきりとしていないところにある。つまり一クラスのみにクラス活動費を利用しなくても全クラスに関わる利用ならば構わないという拡大解釈が成り立つということである。事実と学生に与える印象のギャップが不満を呼び起こしているようである。この点に関して児玉氏は早急に基準の制定が必要であると述べている。

多くの人の為だった。彼を必要とする人がいたからボロボロになりながらもリングに上がって行ったのだ。

「俺は遊んで暮らしたい。だからこんな生活からのし上がりたい」。例えばこんな考え方はアメリカンドリームにはなり得ないのだ。

分が再びリングに上がったのような錯覚に捕われていた。家族の為でもなく、して実はトミーの為でもなく、ただかつてチャンピオンだった頃の自分に陶酔し、トミーの連戦連勝の快進撃に狂喜していたのである。自分を必要としてくれる人の存在を忘れたとき、全ては破綻する。家族を失いかけたロッキーと、チャンピオンの地位に目の眩んだトミー。…だが、ロッキーにはトミーと違い、家族を振り返る優しさがあったのである。

私は「ロッキー」を単なるサクセス・ストーリーやアクションとらえて欲しくない。この作品のテーマは、「人の強さ」ではなかろうか、と私は思う。

計画変更　新厚生棟

厚生棟の改築工事が始まった。新厚生棟の完成に先駆けて、新しい談話室の概観を簡単ではあるが以下に示す。

これまず広さが二倍半になる。これは現在の談話室をそのまま残して中階とした三フロア一型にするためで、新談話室の一階は二階とつながっており、二階は現談話室と幅が広くなる。段差の少ない階段でつながるのでかなり広い空間が生まれることになる。また、一、二階とも西側のほぼ全面に大きなガラス窓が入り二階には天窓も取り付けられるのでの室内は非常に明るいものとなる。

それから新厚生棟を改築するにあたり計画の変更を余儀なくされた点が一つある。それは当初考えられていた現談話室と教育棟の一階をつなぐ連絡通路のかわりに、教育棟Gから現談話室二階へとつながる渡り廊下をつくるというものだ。これは地下を走る汚水やガスの管に負担をかけたのでやむを得なかったのである。

これらの完成により厚生棟が我々とより密接な関係になるばかりでなく、学生達はぜひとこの施設を今までよりも有意義に利用し、心からくつろげる憩いのひとときを過ごして欲しい。

薬味

▽ここ一年余りのヨーロッパの動きは第二次大戦以来ほとんど変化することの無い世界の構造を一変させてしまった。▽ソ連の強い影響化にあった東欧諸国はその支配力の低下を機に共産党独裁体制を排除、念願の民主化への道を歩み始めた。今年の十月には冷戦構造の焦点であった東西ドイツ国境が統一により消失した。▽この民主化の嵐によりワルシャワ・パクトは事実上崩壊、東対西という構図は消えつつある。今やデタントという言葉自体が時代に遅れてしまった感がある。▽社会主義の総本山のソ連でも共産党は脆弱化し民主的な方向へと向かっている。その現れの一つが連邦を構成する各共和国の離反である。ソ連に組み込まれて以来、共産党による抑圧を受けてきた民族主義はここぞとばかりに花開いている。▽世界はあたかも平和、民主主義、繁栄への道を着実に歩んでいるかのようである。が、今までの歴史が示すように大きな変革には常に混乱がつきまとう。▽共産主義の衰退の後、台頭してきたのはナショナリズムである。ソ連やユーゴスラビアでは非常に深刻な問題となっている。民族間の反目は強く、アルメニア、アゼルバイジャン間の様に交戦状態になっている地区もある。ユーゴスラビアは解体の兆しが見え、他の東欧諸国でもユダヤ主義などナショナリズムに根ざした事件が続発している。▽欧州は日本と異なり言語、宗教、人種の違う民族が混在している。国境のような単純なラインでは区分することなどできない。▽現在は大国の中の少数民族が自分達の社会を取り戻そうと必死になって取り組んでいる。ただ彼らが独立を勝ち取っても異なる文化を持つ少数民族が存在する。その少数民族の文化の世界を肯定できる一歩であるが、もし排斥するならば圧政の時代と本質は何も変わっていないと言えよう。

（さあしゃ）

「ドライバー個人に自覚を」

学内交通問題

先の学生大会でも取りあげられた問題であるがこのところ学生の交通マナーの悪さが目につくようになっている。

特に駐車場に於いてはそれが顕著に現れている。例えば正規の駐車許可証を持っている人が自分の駐車スペースに駐められないという問題である。登校して来るとも既に他の無許可の車が駐まっている、といったことまで起こる有様だ。当然、この被害者達からの苦情も多い。加えて院生会からの苦情もある。前出の「駐車できない」や「規定外の場所の駐車があり、そのために出られない」の二つが主なものである。

駐車場の管理を受け持ち、その苦情を一手に取り扱っている執行委員会では、頻発するルール違反に対して、ドライバー個人の自覚を求めたいと強く語っている。これ以上状態が悪くなるようであれば管理が学校側へと移行するのは必至である。現在、学部学生駐車場（百台）、新駐車場（七十三台）、二つの駐車場を合わせると百十一人の学部学生が利用している。

学生のマナーが問われるのは何も駐車場に限ったことではなく、学内の至るところで違法駐車がみられる。庶務課では駐車厳禁の貼紙等で学生に警告を促している。貼紙をはがしさえすれば良いと考えているようであるが、その都度入念にチェックされていることを忘れてはいけない。これは駐車許可証の選定に於いて一つの要因となるのだ。そもそも、そのようなことのために違法駐車をしないという考えは問題である。

学内に於いてのみならず広く社会に於いてモラルの問われるものであるといえよう。大学内の道路であるからといって決して違法駐車をしていいということにはならない。公道と同じようにマナーを守ってもらいたいと学生側は語っている。学生課では、あまりにも違法駐車の多い学生には個人的に注意をしているものの、これ以上の取締りの強化というようなことは今のところ考えておらず学生のモラルを尊重したいとする意見である。

学外での現状に目を向けてみよう。今年度に於いて東薬生が関与している交通事故数はこの十月までで十六件である。（八王子市内で発生したもののみ）。この数は例年と比較しても尋常ではない。十月中旬には南陽台で死亡事故が発生した。それから一ヶ月ほどは学生の違法駐車が減少したものの、ここしばらくは増加の傾向を示し手いる。付近の住民からの苦情も決して皆無であるとは言えない。困ったもので警備員さんが見ていない隙を狙って違法駐車を平然とする学生もある。こういったモラルのなさが今一番の問題であろう。

このような交通問題について期間を設置し、学生のマナーの向上を求めて事故0とするために交通安全キャンペーンを行うことが現在検討されている。この内容についての意見を学生課で受け付けている。

小さな交通違反からでも人の一生を左右するような事故は起こり得る。これをを忘れずに生命の尊さという面から今一度この問題について個人個人考え直してみて欲しい。

提案

我々に守れるもの

このところ日に一度は必ず資源、ゴミ、リサイクルといった言葉がニュースやドキュメンタリー番組で聞かれるようになった。このことは我々一人一人が環境に与える影響がはかりしれないものだという考えが広く一般層にまで理解されていることの証拠であるといえる。そして東薬大生協でもわりばしは資源のムダ使い、ゴミを増やすといった批判が世間に浸透しているのをうけて、普通のはしを一部導入しはじめた。

東薬生は社会動向や市民文化活動などに無頓着であるといわれている。しかしわりばしの件のように学生レベルで、いうなれば学生文化運動としてできることをやらずにおく手はないだろう。今回は我々がこの手でできるもの、しかも学内でできるものについてを二つ提案してゆく。

安易に棄ててよいのか

美しさを守る

季節外れの嵐も過ぎ去って東薬でも下草にかわって落ち葉が土を覆いかくす。ぼうずの木と冬晴れの空と枯葉色の大地がまさに冬の美しさを表現している。だがいつでもどこでも空き缶や紙屑は我々についてまわる。この自然の景色とは全く調和しないものを見ると「どうして自分の大学を大事にしないのだろう」といつも思う。

まわりの環境がこうも汚れてしまうのは①ゴミをなげすてる。②掲示物や貼紙がはがれ落ちる。③ごみ箱からこぼれる。といったことからこぼれる。しかし読者もお気づきの通りこんなことはすべて自分達がほんのすこし注意すればすむことだ。

ゴミは必ずごみ箱に捨てるとか、既にゴミであふれかえっていたり穴やすきまから漏れ出そうなら他のごみ箱にするか、あるいは持って帰るとか、個人が気をつければ極々簡単に実行できることである。

資源を守る

我々は自分達が利用しないものを「ゴミ」としてそこらじゅうにまき散らしてきた。我々の身のまわり、例えば学内の道路端などを見ればまさに文字どおり、「まき散らしている」。しかし「ゴミも資源」というキャッチフレーズを聞いたことはないだろうか。空き缶、空き瓶、紙はおろか、いまやプラスチックのペットボトルまでが再生の対象になっている。（ただペッ

この春開催

薬学会

皆さんもご存じの通り、来年三月末に本学で日本薬学会一一一年会が開催されます。東薬大が年会を担当するのは昭和三十八年以来のことで、学内では昨年より着々と準備が進められています。そこで今回は、年会組織委員長である東京薬科大学の原昭二教授に、日本薬学会の内容などについてお言葉をいただきました。（紙面の都合上抜粋させていただきました。）

薬学の最前線ー　創薬をめざして

年会組織委員長
東京薬科大学教授
原　昭二

日本薬学会一一一年会（東京）は、関東支部の担当（東京薬科大学を当番校として、三月二十八日から三日間、八王子市の同校キャンパス及び隣接する中央大学多摩校舎、パルテノン多摩（多摩市）を会場として開催されます。日本薬学会は会員一万八千人を数え、「年会」は年間最大のイベントで、今回も八千人以上の参加者が見込まれています。

薬学会会員の活動は、「医薬」の科学・技術のすべてをカバーし、基礎から応用まで広範囲にわたっています。また「薬剤師」の職能とも不可分です。年会は、会員が研究発表を通して討論し、新しい道を切り開くためのエネルギーを得る場所であり、貴重な機会として欠かせません。

本年会のプログラム編成では、薬学の大きな目標の一つである「薬物の創製」に照準を合わせました。わが薬学は明治以来、「合成化学」を柱とする純粋な基礎研究を重視し、世界的にも高い水準を維持してきました。しかし応用面への展開において、十分でなかったとの指摘がなされています。そこで我々は、「創薬」に向かって薬学を統合的に考え、新しい一歩を踏み出す機会となることを念願しています。

特別講演の演者として、神戸大医学部の西塚泰美教授、東京理大理学部の向山光昭教授ほか、外国人を含めて二十数名を招待しました。また部会シンポジウム十数件を企画し、わが国の第一線研究者、百名以上を部会シンポジストとして招請しました。その結果薬学、生命科学の最前線が浮き彫りにされることが期待されます。テーマとしては、「新医薬品開発を志向した天然物化学の動向・がんとエイズ」ほか、十三のテーマが取り上げられます。

一方薬学会は、最近広告活動に力を入れています。この機会を捉え、科学、薬学知識の啓蒙・普及を目指して市民公開行事を計画しました。ノーベル賞受賞者、福井謙一先生による講演のほか、成人向けの市民公開講座、薬学の先端機器展、薬用植物園の展示などを計画中です。また公開行事実行委員会を発足させ、市民との交流をはかるため、「パルテノン多摩」大ホールで、N響による市民コンサート（有料）を開催することになりました。これらは八王子市、多摩市など地方自治体の協力で行われます。また、恒例の薬科機器、試薬、新薬、書籍展示が中央大学の体育館などで行われます。

組織委員会では今、プログラム、会場・運営、出版、広報、会計担当が全力で準備、計画に当たっています。ニューー東京、多摩地区に是非お出かけ下さい。

新部門長

体育部門　滝沢　浩（野球部）

学術部門　友常　陽史（漢研）

同好会部門　桜井　浩史（アス研）

尚、文化部門長は
まだ決定しておりません。

東薬に新企画

新教務部長　語る

今年十月に教務部長と学生部長が変わりました。皆さんもご存じかと思いますが、教務部長は、森陽教授（第二生化学教室）から山田泰司教授（化学教室）に、学生部長は酒井格教授（英語教室）から石戸良治教授（第一薬化学教室）となりました。そこで今回は、新教務部長に今後の展望についてうかがってみました。（なお、新学生部長の石戸教授には、先生御多忙のため、インタビューできませんでした。）

教務部長　山田教授　談（概略）

「東薬を卒業して、実力社会で生きていけるような教育を行いたい。また、学生がやりがいを見いだせるような教育方法を考えたい。そこで現段階では、次のようなことを考えている。

一つは、来年度より『情報科学』を増加科目として設ける。これは、一二八講義室にもう既に設置されている四十台のコンピュータを使うことになるだろう。もう一つは現在春と秋に行われている『病院実習』（任意）の一部を来年の八月から実施したいと考える限り、将来どこで働こうが実際に病院実習を経験して欲しいという理由で、これを増加単位として認める方向で話をすすめている。

学生は、薬学という広範囲な分野から何かやりたいことを見つけ、それを深めて欲しい。さらに、学生時代に、社会に出るという意味でのマナーも養って欲しい。」

編集後記

£私が編集長の新聞もこれで最後。明日から困惑と苦悩、逆境の日々から解放され、自由と安楽、女の子もかえって来るでしょう。（さあしゃ）

#今、最後の挽歌が流れる…さあしゃ編集長1年間ごくろーさま、ハイ！（陽子の陽）

@三年の方、来年は後輩の面倒を奪って読んでね（ムーミン）

☆今回はいつもと違った自分が発見できました。これもひとえに・・・（烏龍茶一茶）

#大変お疲れさまでした。眠って下さい。（異邦人）